

エコゼミのあゆみ

(2012年6月～2013年4月)

2012										2013																
6月		7月			9月	10月		11月			12月		1月	2月		4月										
13日		3日	20日	17日	24日	28日	25日	4日	9日	23日	8日	16日	28日	30日	2日	7日	10日	18日	21日	22日			17日		10日～15日	
前期ゼミスタート!!		大覚寺にて観蓮節打ち合わせ	観蓮節PRのためラジオ出演	散華提出	象鼻杯事前テスト	観蓮節 本番	後期ゼミスタート!!	大覚寺にて打ち合わせ (美しい地球をいける)	ポスター撮影	大覚寺にて打ち合わせ	大覚寺にて打ち合わせ	大覚寺・大沢池でガイド講習	学校にて京都三山シンポジウム打ち合わせ	花器出し 搬入	いけばなカフェ 本番	京都三山シンポジウム会場視察	常寂光寺(植樹活動現場)視察 長尾憲佑住職に話を聞く	学校にて京都三山シンポジウム打ち合わせ	搬入	京都三山シンポジウム 本番			制作展パネル展示	第2回いけばなカフェ 本番	陸前高田研修	美しい地球をいける 本番
観蓮節 制作					いけばなカフェ 制作										京都三山シンポジウム 制作					制作展パネル 制作		第2回いけばなカフェ 制作				



ようこそ、いけばなカフェへ



いけばなの楽しさを知ってもらいたい
いけばなカフェ

みんなに知ってもらいたい。

いけばな嵯峨御流の楽しさを。

日常にお花がある喜びを。

その第一歩に

いけばなカフェ ひらきました。

いけばな嵯峨御流発祥の地
大覚寺望雲亭でいける



普段一般公開されていない大覚寺望雲亭。
嵯峨天皇と空海の思い出の場所で、美しい
大沢池の景色を眺めながらお花をいけてい
ただきました。

当日までの流れ

ミーティング

宣伝ポスターとチラシのデザインを私たち学生が担当しました。大覚寺の方や華道の先生と何度も詳細を確認し、ミーティングではデザイン提案や意見、アイデア交換を行い、より良いものを作ろうと話し合いを重ねてきました。

ポスター撮影

ポスターにいけばなの指導風景写真を使用するため、華道家の関灘先生にご協力いただき、当日会場となる雲望亭で撮影を行いました。少しの時間でしたが、先生の魅力をたくさん感じる事ができ、イベントで繋がる人と人との想いの共有の素晴らしさを感じることが出来ました。

ガイド講習

当日のプログラムとして大覚寺大沢池のガイドを行いました。ガイドの台本と説明冊子を作成するにあたって、真板教授から直接ガイドワークのレクチャーを受けました。大沢池の四季の美しさを伝えるために春と夏の風景の写真や、わかりやすいイラストを加えたガイド冊子を準備し、話の流れを考えて台本を作り、練習を行いました。その際、お客様に伝わりやすい話し方や、よりコミュニケーションを取りやすくなるような工夫をそれぞれが考えるよう努めました。

前日準備

イベント前日の作業として花器の搬入、望雲亭の清掃を行いました。茶室から見える範囲の庭に落ちていた紅葉をすべて取り除かなくてはならず、それは思っていたよりも大変な作業でした。しかし、茶道においてのとても大切なしきたりだと学び、改めて日本人の情緒の奥深さを感じました。当日、お客様に少しでもこの空間で過ごす一時を味わっていただけるよう、念入りに心をこめて掃除をしました。

広報活動

ポスターにいけばなの指導風景写真を使用するため、華道家の関灘先生にご協力いただき、当日会場となる雲望亭で撮影を行いました。少しの時間でしたが、先生の魅力をたくさん感じる事ができ、イベントで繋がる人と人との想いの共有の素晴らしさを感じることが出来ました。

ポスター



嵯峨嵐山周辺の 森づくりを考える

シンポジウム「三山におけるこれからの森林づくり」を通して

昨年12月22日に、京都の景観を特徴づける三山（東山・北山・西山）を、いかに維持していくのか考えるシンポジウムを開催しました。

このシンポジウムは、森林景観の保全・再生に対する市民の意識を高め、森林景観づくりを推進していくことが目的です。

私たちはこの議題を学生目線で捉え、森づくり活動の現状と工夫をわかりやすく伝えたいと思い参加しました。

実施日：平成24年12月22日（土）
会場：右京総合庁舎5階大会議場

プログラム

第一部：基調講演「古代ロマン漂う嵯峨野」
覚勝院 住職 坂口博翁氏

第二部：「嵯峨嵐山周辺の森づくりを通して」
「小倉山森林再生事業について」

京都市都市計画局都市景観部景観保全課

協働による森づくり活動

「嵐山における森林景観づくりについて」
嵐山再生研究会代表 深町加津枝氏

「鳥居形松明の特異性を守るための協働」
鳥居形松明保存会会長 荒毛道氏

「小倉山の景観を取り戻すために」
常設光寺住職 長尾兼佑氏

まとめ（森づくりアドバイザー）

安藤 信 氏（京都市立フィールド科学教育研究センター准教授）
高田 研一 氏（特定非営利活動法人森林再生支援センター常務理事）



シンポジウムでの 私たちの活動内容

事前準備

本番までに京都市の方と打ち合わせを重ね、当日の展示物の数や内容を確認しました。『嵯峨御流の景色いけ』『マツ枯れの原因』をまとめたパネルや、配布物を作成しました。いけばなは、作業がスムーズに進められるよう、前日に学校でいけ込みました。



当日は司会進行の打ち合わせやパネル設置、配布物の準備をしました。



展示内容

- ・マツ枯れのメカニズム
- ・嵯峨御流景色いけ
- ・美しい地球をいける



○マツ枯れのメカニズム
現在、日本の伝統的な風景が失われようとしています。その原因である「マツが枯れる過程」を、図や文字で分かりやすくまとめました。



○嵯峨御流景色いけ

いけばな嵯峨御流には、七景三勝というものがあります。

七景は、「山の上の深山から海浜に至るまでの水の流れを軸とした、循環する1つの風景を七つの連続した景色として捉え、どの景色が欠けても日本の風景はない」という発想で捉えています。

三勝は、紅葉の「高雄の景」、桜と溪谷美の「風峡の景」、大沢池の風情をいけばな「庭湖の景」を表しています。

それぞれ大覚寺に近い京都の名勝です。このような内容のパネルを展示し、京都の景観保全を訴えかけました。



嵯峨御流とは

嵯峨御流は平安のはじめ嵯峨天皇が大覚寺大沢池で1本の菊を手折られ殿上の花瓶にさされた事により始まります。

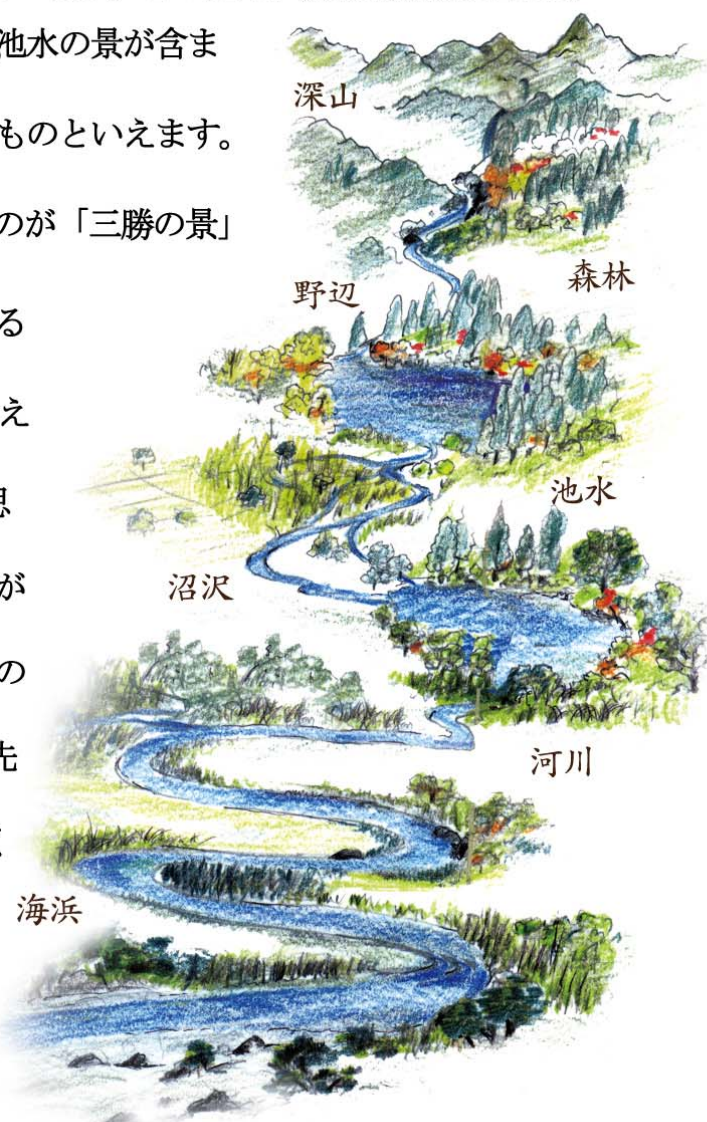
嵯峨御流には^{でんしょうか}「伝承花」と^{しんしょうか}「心粧華」があります。

「伝承花」は、^{せいかに}「生花」「^{もりばな}盛花」「^{へいかに}瓶花」「^{しょうごんかに}荘厳華」の4つの様式花からなります。「心粧華」は新しい時代のニーズに相応した未来感覚に溢れる花態です。

景色いけ（七景三勝）

七景では「山の上の深山から海浜に至るまでの水の流れを軸とした循環する1つの風景をまとめた七つの連続した景色の系として捉え、そしてこの一つの景色が欠けても日本の風景はない」という発想で捉えています。このため、農村的景観を含む野辺の景やため池と言ったものを対象とした池水の景が含まれています。これはまさに嵯峨御流独自のものといえます。

これら「景色いけ」の原点となっているのが「三勝の景」といわれる景色いけが、嵯峨の地を代表するものとして水の景観が美しい3つの景勝地をえらんだものです。このような三勝の設定の思想的背景を鑑みるに「景色いけ」には空海が説いた「天と地と人が一体になっていてその中ですべての世界が実現している」という先に述べた^{まんだら}曼荼羅の宗教観がこの花態に色濃く働いていたのではないかと推測できます。



嵯峨御流の華道家と環境問題に 関わる気候帯別の「世界の守りたい風景」を いけばなで表現し環境保全を訴える。

世界の大使夫人から自国の守りたい風景を提起していただき、その心象イメージを華道家がいけ表します。また、日本の気候帯別の風景や、京都の守りたい風景をテーマとしたいけばな作品も同時展示の予定です。

岩手県 陸前高田 高田松原の一本松

日本では平成23年3月の東日本大震災により、人々の心の支えであった原風景が一変してしまいました。このような大災害や気候の変動による美しい風景の消失は世界のどこでも起こる可能性があります。今こそ世界が一つとなってこの危機感を共有し、手を取り合って行動することが求められています。

このイベントでは、高田松原の一本松の風景を嵯峨御流の景色いけで表現し、展示する予定です。



東日本大震災の大津波に耐えた高田松原の一本松
撮影：渡辺雅史

「美しい地球をいける」
守り伝えたい生命の風景「京都から世界へ！」

日程

2013年4月12日(金)～15日(月)

会場

大覚寺

常寂光寺

京都グランヴィアホテル



旧嵯峨御所大本山大覚寺



常寂光寺

美

しい地球をいける

地球温暖化などの環境問題が深刻化し、地球を守ろうと京都から世界に京都議定書が発信されました。しかし、六年を経た今日に至っても問題は解決していません。むしろ二酸化炭素濃度は上昇傾向を示し、地球温暖化は日々進行し全ての人々の心のよりどころである世界各地の美しい風景が失われてきています。

京都という地で世界各国の人々と協働しながら、心の支えである「世界と日本の守りたい景色」をいけばなでいけ表すことによって、地球の美しい風景、そして命を守り伝えることの大切さを訴えていきたいと思えます。